

タイ語の辞書

(編集前の草稿)

高橋清子

1. タイ語辞書編纂の歴史

タイ語の語彙一般を何らかの規則にしたがって列挙しタイ語でその意味を解説した初めての辞書らしい辞書は、カズウェル J. Caswell によって編纂されチャンドラー J.H. Chandler によって手が加えられた *A Dictionary of the Siamese Language* である。手書き辞書で、1846年に完成した。語の並べ方に多少の不整合は見られるものの、辞書の体裁をなす最古のタイ語・タイ語辞書である。影印版の「チュラロンコン大学創立 84 周年記念出版」を標榜する『A Dictionary of the Siamese Language by J. Caswell; copied and enlarged by J.H. Chandler (1846) จัดพิมพ์เนื่องในโอกาสเฉลิมฉลอง๘๔ปี แห่งการสถาปนาจุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย』(A5 版、978 ページ) がチュラロンコン大学出版部 สำนักพิมพ์แห่งจุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย から 2001 年に出版された。当時のタイ語の語彙に関する情報が詰まった貴重な歴史的辞書である。

1830年にタイに渡ったフランス人神父ジャン・バティスト・パルゴワ Jean Baptiste Pallegoix が 2 冊の辞書を編纂している。1 冊目は、ラテン語・タイ語の対訳辞書 *Dictionarium Latinum Thai* (497 ページ、Typographia collegii, Assumptionis B.M.V.、バンコク) で、初版は 1850 年に出版された。第 2 版 (992 ページ、Typis Catholicae Missionis、バンコク) はページ数を倍増して読みやすくし、1897 年に出版された。タイで初めて印刷され出版された辞書である。2 冊目は、タイ語・ラテン語・フランス語・英語の 4 言語対訳辞書 *Dictionarium Linguae Thai Sive Siamensis* สัพพะจะนะ พาสาไท (897 ページ)。初版はパリで 1854 年に出版され、縦 14.5 インチ×横 11.5 インチ×厚さ 2.75 インチという非常に大きな辞書だった。第 2 版はイギリスで 1972 年に出版された。ラテン語訳を削り、文法解説や度量衡・年月日などの情報を加えた、フランス人神父ヴェイ (J. L. Vey) の手になる改訂増補版 *Dictionnaire Siamois Français Anglais; Siamese French English Dictionary* ศิริพจนานุกรมไทย (1,169 ページ、約 3 万語、Printing-office of the Catholic Mission、バンコク) が 1896 年にバンコクで出版され、広く流布した。現在でもタイ語の古語を調べるときによく使われる。

1833年にタイに宣教師として渡ったイギリス人、ジョン・テイラー・ジャーンズ John Taylor Jones が 1846 年に、タイ語・英語の対訳辞書をつくったという記録が残されているが、現物は残っていない。

1865年には、アメリカ人宣教師サミュエル・ガンブル・マクファーランド Samuel Gamble McFarland によって英語・タイ語の対訳辞書 *English-Siamese Vocabulary* (343 ページ、7 千語、バンコク) でつくられた。その後、息子のジョージ・ブラッドリー・マ

クファールランド George Bradley McFarland が改訂増補版 (1,019 ページ、1 万 6 千語) を 1941 年に出版した。

1873 年にはアメリカ人宣教師ダン・ビーチ・ブラッドリー Dan Beach Bradley が *Dictionary of the Siamese Language* หนังสืออักษรภิธานศัพท์ (縦 11.5 インチ×横 9 インチ、828 ページ、約 4 万語、バンコク) を完成させた。タイ語研究者にとっては非常に興味深い辞書である。

以上紹介したものの他にも 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて出版された辞書は相当数あるが、そのほとんどがタイ語と外国語の対訳辞書であった。日本人の手による最も古いタイ語・日本語の対訳辞書は、元外交官の奥野金三郎が編纂し、1958 年に日本で出版された『タイ日大辞典 พจนานุกรมไทย-ญี่ปุ่น』(A5 版、刀江書院) である。

名実ともにタイ人の手によるタイ語・タイ語辞書は、国民教育を目的として編纂された官製辞書『辞書: タイ語の書物で使われる語の書き方と意味 พจนานุกรม คำค้นแปลศัพท์ที่ใช้ในหนังสือไทย』(縦 9.5 インチ×横 6.5 インチ、605 ページ、バンコク) である。タイ政府主導で編纂が進められ、1892 年に出版された。タイ文字の通常の順番で語句が並べられている (ただし現在のタイ国学士院辞書とは多少違う)。タイ語起源の日常語よりも他言語から借用した雅語の収録数が多い。1902 年には改訂版『辞書: 正しい書き方のためのタイ語の語の解釈 พจนานุกรม แปลคำศัพท์ภาษาไทยสำหรับเขียนคำให้ถูกต้องด้วยสกค』(縦 9 インチ×横 6.5 インチ、446 ページ、16,146 語、バンコク) が出版され、1920 年には再改訂版『学校用辞書 ปทานุกรมสำหรับโรงเรียน』(縦 9.5 インチ、横 6.5 インチ、905 ページ、バンコク) が出版された。1927 年には一般語彙の収録を増やした再々改訂版『道德省教科書局の辞書 ปทานุกรม กรมตำรากระทรวงธรรมการ』(26,230 語) が出版された。さらに再々改訂版『児童生徒向け辞書 ปทานุกรมสำหรับนักเรียน』(縦 8 インチ×横 6 インチ、871 ページ、18,580 語、バンコク) も 1929 年に出版されたが、あまり使われなかった。

これらの先駆的な官製辞書を大幅に改訂増補する形で新たにタイ国学士院 (1934 年創設) が編纂した『辞書: 学士院版 พจนานุกรม ฉบับราชบัณฑิตยสถาน』の初版 (縦 7.5 インチ×横 5.5 インチ×厚さ約 2 インチ、1,115 ページ、バンコク) が出版されたのは 1950 年のことである。文学や宗教に用いられる語彙を収録した大きな巻と日常語彙を収録した小さな巻に分かれる。『道德省教科書局の辞書 ปทานุกรม กรมตำรากระทรวงธรรมการ』で多数収録されていたサンスクリット語起源の語は、実際には使われていないという理由で多くが削られた。ただし有名な固有名詞は別冊に収録された。語源分類、品詞分類の他、位相 (法律、詩歌、数学、方言、古語、口語、王語、廃語、科学、文法、慣用句、擬声語・擬態語など) の別も示されている。1 冊本になった改訂版 (縦 9.5 インチ×横 6.5 インチ×厚さ 1.5 インチ、930 ページ) は 1982 年に出版された。最新版である再改訂版 (B5 版、1,499 ページ) は 1999 年に出版された。この学士院辞書は現在もっとも権威あるタイ語・タイ語辞書である。

その他、20 世紀後半に民間の出版社から出版された主な一般辞書は以下の通り。いず

れも完成度はそれほど高くなく、学士院辞書などの官製辞書を下敷きにしてあるいは真似て編纂されたものである。

(1) マーニット・マーニットチャルーン มานิต มานิตเจริญ 著『タイ語辞書 最新版 พจนานุกรมไทยใหม่-ทันสมัยที่สุด』(1,142 ページ、バンコク、1961年)。学士院辞書から引用した語の他、借用語、慣用句、スラングなどがふんだんに盛り込まれている。巻頭にも巻末にもタイの文物を説明するための図や絵がある。

(2) チャムノン・トーンプラサート จันทน์ทองประเสริฐ 著『タイ語辞書 พจนานุกรมไทย』(第2版は480ページ、バンコク、1971年)。官製の学校用辞書をもとに編纂した児童生徒学生向け辞書。

(3) プルアン・ナ・ナコン เปลื้อง ณ นคร 著『辞書・百科辞典 最新版 พจนานุกรมฉบับทันสมัย』(B5版、603ページ、バンコク、第1巻1973年、第2巻1975年)。第一巻が辞書で、第二巻が百科辞典(地理、保険、法律、文学、仏教、日時などの分野に分かれている)。

(4) タウィーサック・ヤーンプラティープ ทวีศักดิ์ ญาณประทีป 著『辞書: 仏暦2430年 国王の栄光を寿ぐ記念版 พจนานุกรมฉบับเฉลิมพระเกียรติ พ.ศ.๒๔๓๐』(バンコク、1988年) 学士院辞書をもとに編纂。図や絵も使う。

(5) モー・ポー・ポー言語学研究所 สถาบันภาษาศาสตร์ ม.ป.ป. 編『官製辞書 ปทานุกรมฉบับหลวง』(1,599ページ、バンコク)。図や絵が随所に挿入された非常に大きな辞書。王室関係、地理関係、法律関係などに分類され、それらの分類ごとに ก から ฮ の順番で語が並んでいる。

タイ語辞書編纂の歴史および個々の歴史的辞書の内容については以下に挙げる3つの文献に詳しい記述がある。③はチュラロンコン大学文学部によるタイ語およびタイ文学に関する研究調査プロジェクトの一環としてタイ語辞書編纂の歴史を調査してまとめた200ページに及ぶ報告書である。

- ① 富田竹二郎著『タイ日辞典』(初版1987年) 巻頭の「タイ国辞典略史」
- ② マティチョン社 มติชน 編『マティチョン版辞書 พจนานุกรม ฉบับมติชน』 *Matichon Dictionary of the Thai Language* (2004年) 巻末の「タイ語辞書成立の経緯 ความเป็นมาของพจนานุกรมภาษาไทย」
- ③ ティーラパン・ルアントーンカム วีระพันธ์ เหลืองทองคำ 著『タイ語・タイ語辞書編纂: 過去～現在 (仏暦2349－2533年) การทำพจนานุกรมไทย-ไทย: อดีต-ปัจจุบัน (พ.ศ. ๒๓๔๘-๒๕๓๓)』(1991年)

2. 語史上にかがやく古典的辞書と古典的文法書

<古典的辞書>

前節で紹介した重要な古典的辞書の中でも、私が日頃よく使い、その意味記述を読んで

いろいろと考えを巡らせることの多い、愛着のある辞書2冊に絞って詳述したい。

私の第一の愛読タイ語辞書は、1832年にアメリカからタイに渡り、宣教師、医師、そして編集出版者として長年タイで活躍したブラッドリー（通称プラットレー医師 หมอปรัดเล）が35年の歳月をかけて1873年に完成させた *Dictionary of the Siamese Language* หนังสืออักษรวิธานศรีบริ (縦11.5インチ×横9インチ、828ページ、約4万語、バンコク) である。ブラッドリーは念願だったこの辞書の完成を目前にして亡くなった。しかし編纂作業をすべて終え、すでに印刷に回した後のことであるから心残りにはなかったであろう。私が使っているのは教員協会の商業組織 องค์การคำของครูสภา が1971年に出版した影印版 *Dictionary of the Siamese Language by Dr. Dan Beach Bradley* หนังสืออักษรวิธานศรีบริ だが、原本とまったく同じ内容である（図版参照）。

第二の愛読タイ語辞書は、月並みではあるが、丁寧な意味記述で定評のある『学士院辞書 พจนานุกรม ฉบับราชบัณฑิตยสถาน』だ。Bradley 辞書と同様、私にとってはタイ留学時代の様々な思い出がつまった辞書である。1950年版は2巻本（1,115ページ）だったが、私が使っているのは1巻本になった1982年版（改訂版）（縦9.5インチ×横6.5インチ、930ページ、อักษรเจริญทัศน์ アクソーンチャルーンタット社）で、その第6版（1,040ページ、1996年）である。1999年版（最新版）（B5版、1,499ページ、ナーンミーแนน社）は厚く重くなった。

まず、Bradley 辞書の魅力について。同辞書の前書きにあるように、この辞書の執筆を任されたのはタット先生というタイ人である。ブラッドリーの日記によればタット先生はブラッドリーにタイ語を教えていた家庭教師であるが、それ以上のことはわかっていない。またムアン氏というタイ人も編纂にかかわっていた。おそらくタット先生の助手を務めた人であろうと思われるが、やはりその身元はわかっていない。Bradley 辞書には不規則な語の並べ方や誤字が多くあり、例えば「ย่าง ยายน (歩む)」と「ย่าง ยายน (焼く)」を区別しないなど意味の分類や記述にもいい加減さが見られるという言語学者の批判がある。確かにその通りではあるのだが、Bradley 辞書の一見稚拙だが本質を突いた意味記述には、著者であるタット先生やムアン氏の実直な人柄がそこはかとなく感じられる。そして何より、当時の時代状況や人々の生活の有様をうかがい知ることができる。それがこの辞書の一番の魅力である。またタイ語研究者にとっては、19世紀後半から現在までの約1世紀半の間に語の意味や用法がどう変化したのかを探る道具としての利用価値が少なからずある。

具体例を挙げよう。留学（言語学科）時代の私の研究テーマのひとつがタイ語の移動動詞の意味記述だったのだが、例えば「กลับ คลาпп (返る、帰る)」、「ย้อน โย่น (戻る、遡る)」、「หมุน มุน (回転する、自転する)」、「เวียน เวียน (回る、巡る)」といったタイ語の移動動詞は、日常よく使われる基本的な移動動詞であるにもかかわらず、英語や日本語の移動動詞と一対一でうまく対応するような意味を持たないことに気づいていた。できればそれぞれの語の古くからの意味を知りたいと思っていたところ、大学図書館でたまたま見つけたのが Bradley 辞書だった。「กลับ คลาпп (返る、帰る)」の意味記述（64ペ

ージ) を読んだときは、なるほどと思ったものである。

กลับ, อาการที่คนหลุดตัวไปสู่อื่น, แล้วคืนมายังที่เดิม. อนึ่งเดิมนอนตะแคงอยู่เบื้องทราย, แล้วพลิกมาเบื้องขวา. クラップ, 人間あるいは動物が他所に行って, それから元の場所に戻ってくること. なお、もともとは、脇を下にして寝て左方向を向いていて, それから右方向に寝返ること.

それ以来、語の意味を確認したくなったら Bradley 辞書を開くことにしている。目的の語の前後に並んでいる語の記述にも興味を惹かれ、読みふけてしまうことが多い。そうした道草読みによってそれまで疑問に思っていた語義についてのヒントを得ることは結構多い。

もう一冊の愛読辞書「学士院辞書 1982 年版」は、古典辞書といえるほど古い辞書ではないが、古典辞書のような風格と威厳を持った辞書である。格式高い表現、非のうしろどころがない洗練された記述——、外国人タイ語学習者の私にとって「学士院辞書」の意味記述はタイ語説明文の模範であった。

移動動詞のデータを集めるため、この辞書に収録された移動動詞をすべて拾おうと試みたことがある。拾い上げた動詞は何百、何千になったはずだが、覚えていない。覚えていないのは、一般に動詞の典型とされる移動動詞の範疇においても名詞との区分はそれほど明確ではないと知ったこと、タイ語の移動動詞を分類するには移動の経路や様態だけでなく移動物の存在論的特徴や移動後の結果状態なども考慮した意味弁別要素を立てなければならないと感じたこと、巻末に添えられている動植物、文様、船、楽器、漁具、刀の写真や絵を見てなぜこれらのものが特に選ばれて載せられているのか不思議に思ったこと、等々である。移動動詞をリストアップしたからといって研究が飛躍的に進んだわけではなかったが、タイ語・タイ語辞書を読むことで読解力や語彙力の向上につながった部分はあったのかもしれない。その意味では、学士院辞書は当時留学生だった私のよいタイ語教材だったわけである。

< 古典的文法書 >

タイ語の古典的文法書は、プラヤー・ウパキットシラパサーン พระยาอุปกิตศิลปสาร が記した『綴字論 อักษรวิธี』(1918 年)、『品詞論 วิจิตรวาทะ』(1923 年)、『統語論 วากยสัมพันธ์』(1937 年)、『詩形論 จันทรลักษณ์』(1941 年) の 4 部から成る『タイ語の原則 หลักภาษาไทย』が有名だ。1992 年にはタイワタナーパーニット ไทยวัฒนาพานิช 社から再版されて 1 冊本 (A5 版、514 ページ) になった。同書の品詞論や統語論はいわゆる西洋文法をそのまま (無節操に) タイ語に当てはめて (乱暴に) 説明したと言っても過言ではなく、タイ語の言語事実に沿った文法論とは言えない。

古典と言えるほど古くはないが、ノス R. B. Noss 著 *Thai Reference Grammar* (B5 版、258 ページ、Foreign Service Institute, Washington, D.C., 1964 年) は言語学関係者の

間ではよく知られた名著である。著者はアメリカ構造主義言語学者。1971年には กุรุสภกัฏฐา タイ国教員協会から陰影版が出版された。構造主義言語学という言語理論の是非は別にして、同書の言語事実に関する記述は正確であり、包括的な文法記述を目指している。同書を読めばタイ語の統語構造の概要を知ることができる。最後に文法項目および主要語句の索引があるので便利だ。

タイ人言語学者が書いた構造主義言語学のタイ語文法書としてはウィチン・パヌポン วิจิตรณ์ ภาณุพงศ์ Vichin Panupong 著 *Inter-sentence Relations in Modern Conversational Thai* (B5 版、Siam Society、バンコク、1970 年) がある。チュラロンコン大学文学部言語学科の創設者である著者がロンドン大学に提出した博士論文を改訂し出版したもの。1977 年にはタイ語版も出版されている。

3. 現代のすぐれた一般辞書

最近話題の辞書に、硬派の新聞や雑誌を編集し出版している มติชน มติชน社が 2004 年に出した 『มติชน版辞書 พจนานุกรม ฉบับมติชน』 *Matichon Dictionary of the Thai Language* (B5 版、1,095 ページ、มติชน มติชน社、バンコク) がある。学士院辞書 (最新版) に比べると厚さも重さも 3 分の 1 以下、スリムでコンパクトだ。1 ページを 2 つのコラムに分け、見出し語のすぐ後に (必要に応じて発音) 品詞分類の略語、説明文が続くレイアウト形式は学士院辞書と変わらないが、紙が上質で薄く、さらに印字が細かく精緻であるため 1 ページの掲載語数が多い。ページの縁には小さな写真や絵が縦に並べて数枚掲載され、その印刷紙面も明瞭で美しい。実はมติชน社はこの辞書を出版する数年前に、学士院辞書には載っていない語を集めた小さな辞書 『辞書: 学士院の外 พจนานุกรม นอกกรอบบัณฑิตยฯ』 (A5 版、245 ページ、มติชน มติชน社、バンコク、2000 年) を出版していた。好評を博したその辞書の内容がそっくり活かされている。

このมติชน辞書は面白い。面白いだけではなく、語の説明が的確で理解しやすい。その的確さは単に言葉を尽くして詳しく丁寧に説明しているということではなく、むしろ記述は平易かつ簡潔で無駄がない。มติชน辞書の真骨頂は、現代タイ社会の中でその語がどのように用いられているのか、どのようなタイ人の価値観がその語の意味に反映されているのか、その説明に重点が置かれていることである。短いながらも筆者のユーモア精神や頓智が見え隠れする含蓄のある論述が随所に見られる。写真や絵の選び方にも筆者の技が感じられる。百科辞典的あるいはデータブック的価値を持つ辞書といえるだろう。

学士院辞書 (最新の 1999 年版) とมติชน辞書が具体的にどう違うのか、「ยุค ยุค」という語の記述を例にとって比較してみよう。学士院辞書 (910 ページ) では、「ยุค ๑ ยุค 1」「ยุค ๒ ยุค 2」「ยุค ๓ ยุค 3」と見出し語に 1 から 3 の番号をつけ、異なる意味を持った別の語として分類している。なお、ยุค 1 とยุค 2 は古代インド系言語起源の複合語の一部として使われるときの意味である (「頸木」や「対」といった意味で単

独で使われることはないので自立語とは言えない)。

ยุค ๑ น. แรก. (ป., ส.). **ユック 1** 名詞. 頸木. (パーリ語・サンスクリット語起源).

ยุค ๒ น. คู่, ทั้งสอง. (ป., ส.). **ユック 2** 名詞. 双・対、両～. (パーリ語・サンスクリット語起源).

ยุค ๓ น. คราว, สมัย, เช่น ยุคมีด ยุคหิน; กำหนดเวลาของโลก มี ๔ ยุค. (ดู จตุรยุค). (ป., ส.). **ユック 3** 名詞. 期、時代、暗黒時代や石器時代など；世界の時代を4つに区分したもの. (จตุรยุค チャトラユックの項を見よ). (パーリ語・サンスクリット語起源).

また、それぞれの項目で意味説明の後にその語を含む複合語の典型例を挙げている。例えばユック 3 では、「ยุคเจ็ด 困窮（災難）時代」、「ยุคทมิฬ 凶悪（暴政）時代」、「ยุคทอง 黄金時代」、「ยุคมืด 暗黒（自由が制限され希望が失われた）時代」の4つが挙げられている。

一方、マティチョン辞書（714ページ）では、「ยุค ยูคค์」という1つの見出しにいくつかの異なる意味がまとめて提示されている。学士院辞書に比べると荒っぽい記述である。

ยุค น. คู่; คราว, สมัย; กำหนดเวลาของโลก เช่น ยุคหิน ยุคเหล็ก. **ユック** 名詞. 双・対；期、時代；石器時代や鉄器時代など世界の時代区分.

ただし「ยุค ยูคค์」で始まるインド系言語起源の複合語もきちんとそれぞれ独立した見出し語としてその次に挙げている（その点は1982年版学士院辞書と同じ）。いずれにせよ、見出し語の下にリストアップされた関連語の多彩さやその解説のユニークさにかけては、マティチョン辞書は他のどの辞書にも劣らないであろう。「ยุค ยูคค์」の下にも「ยุค ยูคค์」から始まる13の複合語が挙げられているのだが、特に面白いと思ったのは、最近生まれた、現代の社会状況を象徴するような語（例えば「ยุคไอที IT時代」や「ยุคไอเอ็มเอฟ IMF時代」など）が含まれていることである。たった4つの（古臭い）関連語しか挙げていない学士院辞書と好対照なマティチョン辞書の編纂方針であると言える。

またマティチョン辞書は、擬音語・擬態語の類も数多く載せている。例えば「บึก บัค」(503ページ)という擬態語の意味記述は以下のとおり。

บึก ๑. ลำต้นแข็งแรง, บางทีใช้เข้าคู่เป็น ลำบึก; เสียงบึกๆ. **ブック** 副詞. がっしりと太って強健な、ラム・ブックと複合語の形で使われることもある；ブックブックという音.

まずこの語がどのような意味をもっとも頻繁に表すのかを記述し、どのような形でよく使われるのかについても言及し、さらにその他の意味についても記述している。こうした簡潔で的を得た意味記述もさることながら、典型例を示す挿入写真がよい。「บึก บัค」な身体で世界的に有名なシュワルツェネガー氏の上半身姿だ。盛り上がった左の大胸筋がランニングシャツから大きくはみ出している。「บึก บัค」とはどんな意味を表す語であるのか、

この写真を見れば一目瞭然である。

語の使い方のお手本を示す「規範的辞書」(官製辞書に多い辞書)ではなく、語の実際の使われ方を説明する「記述的辞書」(百科辞典に通じる豊かさを持つ辞書)がいかに面白い読み物たりうるかを示すよい例がこのマティション辞書である。タイ語を学習する外国人にもお勧めだ。ただしこの辞書の面白さはある程度タイ社会に親しみタイ語の運用能力がかなり上級になってからでないとわからないだろう。初級・中級者はやはり学士院辞書を読んで正統派のタイ語説明文に親しむことから始めたほうがいいかもしれない。

ここで、年々高性能化し多機能化している電子辞書のことを特記しておこう。小さくて軽いのに、紙の辞書とは比べ物にならないほどの情報量が詰まっている。現在タイ語の電子辞書には、チュラロンコン大学文学部翻訳センターが開発した **Talking-Dict** シリーズと、台湾の Besta 社が開発した **CyberDic** シリーズの2つの機種がある。2005年時点での最新型はそれぞれ以下のとおり。

(1) **Talking-Dict** シリーズの **Super Pro** (縦13cm×横7.5cm×厚さ1.5cm、重さ120g)。英泰・泰英辞書、英英辞書、泰泰辞書、中英・英中辞書、経済用語辞書、法律用語辞書、医学用語辞典、ことわざ辞書、スラング辞書、人名辞書、略字辞書などの辞書の他、様々な場面をテーマにした会話も入っている。英語や中国語なら会話の発音も聴くことができる。また書籍 CD-ROM (E-book) から100冊以上の書籍を選んでダウンロードできる。

(2) **CyberDic** シリーズの **CyberDic 9** (縦14cm×横8cm×厚さ2cm、重さ226g)。画面はカラーで、**Super Pro** より内蔵されている辞書の種類が多く(英中韓日辞書やイラスト付きあるいは動画付き辞書などもあり、百科辞典もオプションで入れることができる)、英語の **E-Learning** 機能もより充実している(動画つき学習機能や自分の発音を録音する機能もある)。計算機能、スケジュール機能、ゲーム機能なども備えている。

4. 現代のすぐれた特殊辞書

<類義語辞典>

ユーン・プーウォーラワンおよびその他 ชื่น ภูววรรณ และคณะ 著 『タイ語辞書：類義語版 พจนานุกรมไทย ฉบับคำพ้อง』 *Thai Thesaurus* (縦約14センチ×横約10センチ、784ページ、約2万語、シーエトユーケーチャン (シー・エドゥケーション) ซีอีเคชั่น 社、バンコク、2000年)。著者はカセサート大学の機械翻訳研究グループである。1978年に出版された初版(B5版、680ページ)と内容は変わっていないが、形がコンパクトになり、ページの端に子音字一覧が付け加えられたので、格段に使いやすくなった。

<シソーラス>

ナワワン・パントウメーター นาววรรณ พันธุเมธา 著 『語コーパス คลังคำ』 (A5版、1,208ページ、

アマリン อมรินทร์ 社、バンコク、2001 年)。タイ語のシソーラスとしてはもっとも意味分類がきめ細かく収録語が多いものであろう。目次体系が複雑であるため、語を引くのに多少時間がかかるが、どの意味項目も多数の類義語をまとめて列挙しているので何かと便利である。著者はチュラロンコン大学文学部タイ語学科の元教授。他にも優れたタイ語の教育書・研究書を執筆している。

< 類別詞辞典 >

学士院 ราชบัณฑิตยสถาน 編 『類別詞：学士院版 ลักษณะนาม ฉบับราชบัณฑิตยสถาน』 (縦約 20 cm×横約 10 cm、128 ページ、バンコク、1995 年)。『1982 年版学士院辞書 พจนานุกรม ฉบับราชบัณฑิตยสถาน พ.ศ.๒๕๒๕』から類別詞を抜き出して作られた小さな辞典。類別詞リストとしては最多の収録語数を誇る。私が買ったのは改訂版 (第 6 版) (縦約 20 cm×横約 10 cm、138 ページ、サハミット สหมิตร 社、バンコク、2003 年)。日本人が日本語の助数詞を忘れやすいように、タイ人もタイ語の類別詞を忘れやすいようだ。外国人タイ語学習者にとっても便利な一冊。

< 略語辞典 >

ワーリー・アムプライワン วรวิทย์ อัมไพวรรณ 著 『略記号と略語の辞典 พจนานุกรม อักษรย่อและคำย่อ』 (パッタリン ภัทรินทร์ 社、バンコク)。私が買ったのは改訂版 (第 5 版) (縦約 17 cm×横約 12 cm、176 ページ、パッタリン ภัทรินทร์ 社、バンコク、2004 年)。タイ語の新聞や雑誌には、地名、機関名、肩書き名などの略記号や略語が多用されていて、何を意味するかわからないことがよくある。略記号・略語辞典が一冊あると便利だ。

< 工芸品・民芸品辞典 >

ウィブーン・リースワン วิบูลย์ ลี้สุวรรณ 著 『工芸品・民芸品辞典 พจนานุกรม หัตถกรรม เครื่องมือเครื่องใช้ พื้นบ้าน』 (ムアンボーラーン เมืองโบราณ 社、バンコク、2003 年)。私が買ったのは第 2 版 (B5 版、352 ページ、約 1,300 語、ムアンボーラーン เมืองโบราณ 社、バンコク、2003 年)。翻訳の仕事をしていて一番困るのがタイの伝統的な工芸品・民芸品の名称が出てきたとき。辞書を引いても記載がなかったり、記載があったとしても実際にどんなものなのか想像がつかない場合が多い。この辞書は写真をふんだんに使ってタイの伝統工芸品・民芸品について詳しく説明している。

< 仏教辞典 >

プラタマピドック (ポー・オー・パウト) พระธรรมปิฎก (ป.อ.ปยุตฺโต) 著 『仏教辞典：用語編 พจนานุกรม พุทธศาสตร์ ฉบับประมวลศัพท์』 (A5 版、378 ページ、マハーチュラロンコンラーチャウィタヤーライ大学出版部 โรงพิมพ์มหาวิทยาลัยมหาจุฬาลงกรณราชวิทยาลัย、バンコク、1979 年)。私が買ったのは第 11 版 (A5 版、351 ページ、マハーチュラロンコンラーチャウィタヤーライ大学出版部 โรงพิมพ์มหาจุฬาลงกรณราชวิทยาลัย、バンコク、2003 年)。タイ語の仏教関連の語はパーリ語起源なの

で、一般人には難しい。この辞書は仏教関連語をタイ語でわかりやすく解説している。姉妹編として『仏教辞典：教義編 พจนานุกรมพุทธศาสตร์ ฉบับประมวลธรรม』（1975年）も出版されている。私が買ったのは第12版（A5版、412ページ、マハーチュラロンコンラーチャウィタヤーライ大学出版部 โรงพิมพ์มหาจุฬาลงกรณราชวิทยาลัย、バンコク、2003年）。この教義編は3部に分かれ、第1部は書名のとおりに教義辞典だが、第2部と第3部は仏教用語の簡単なタイ英・英タイ辞書になっている（第2部は約50ページ、第3部は約20ページ）。

<同韻語辞典>

チャイラット・ウォンキアンカチョーン ชัยรัตน์ วงศ์เกียรติขจร 著『同韻語辞典 พจนานุกรม คำสัมผัส』 *Rhyming Dictionary* (B5版、613ページ、教員協会の商業組織 องค์การค้ำของครูสภา、バンコク、2001年)。タイ語の詩歌を聞いていて（お祝いの席などでは今でも多くのタイ人が自作の詩歌を披露する）、その美しい響きやテンポに魅了されるのは一定の決まった韻を踏んでいる（押韻している）からである。この辞書は韻文（定型詩歌）をつくる時に同韻語を探すために使うもの。しかし詩歌の素養がない人間にとっても読んで面白い。いわゆる音引き辞書と同じで、同じ音節音を持つ単語がずらりと並べられており、単音節語が多いタイ語の場合は、さながら複合語辞書のようなものである。

<手話辞典>

タイ国聴覚障害者協会 สมาคมคนหูหนวกแห่งประเทศไทย The National Association of the Deaf in Thailand 編『タイ語手話辞典 ปทานุกรมภาษามือไทย』 *The Thai Sign Language Dictionary* (バンコク、1986年)。私が買ったのは改訂増補版（縦26cm×横21cm、タイワタナーパーニット ไทยวัฒนาพานิช 社、バンコク、1990年）。1ページが3つの段落に分かれ、ページ半分に手話をしている人（上半身）の絵があり、もう半分にはその手話が意味するタイ語と英語の訳および動作についての解説がある。巻末に英語とタイ語の索引がある。手話は万国共通であると思っている人が多いが、そうではない。同じ言語を話す国の中でも、音声言語と同様、地域や集団によって異なった手話の方言が存在する。標準語の普及に欠かせないのが辞書の編纂であるが、タイ語手話の辞書が編纂されたということはタイでも手話の標準化が進められているということだろう。

5. 現代のすぐれた百科事典

タイ語で書かれた百科辞典の草分けとしては、1955年から現在に至るまでずっと編纂・出版が続けられている学士院百科辞典（現在のところ25巻、計16,438ページ）と、1973年から1978年にかけて出版されたウタイ・シントゥサーン อุทัย สินธุสาร 著『タイ百科事典 สารานุกรมไทย』25巻（B5版、5,011ページ、バンコク）が挙げられるが、ここでは外国人タイ語学習者にとって利用価値が高いと思われる百科辞典を2種紹介する。

1 つは、数年前に出版されたサヤームプレート・メネートメン (サイアムプレイス・マネジメント) สยามเพรส แมเนจเม้นท์ 編 『タイ文化百科辞典 สารานุกรมวัฒนธรรมไทย』 (B 5 版、バンコク、1999 年)。中部編 (15 巻、7,514 ページ)、南部編 (18 巻、9,076 ページ)、北部編 (15 巻、8,159 ページ)、東北部編 (15 巻、5,472 ページ) に分かれている。タイは日本の 1.4 倍の国土を持つ多民族国家であり、タイ文化といってもその文化は決して均質なものではない。この百科辞典は、タイの国土を大きく 4 つの地方に分け、それぞれの地方の文化に関する項目について詳しく解説したものである。

もう 1 つは、1973 年から編纂・出版が続けられている『国王のご発案による青少年のためのタイ百科辞典 สารานุกรมไทยสำหรับเยาวชน โดยพระราชประสงค์ในพระบาทสมเด็จพระเจ้าอยู่หัว』 (現在、29 巻まで刊行)。私が買ったのは第 15 版 (縦約 28 cm×横約 22 cm、1 巻 300 ページほど、アマリン อมรินทร์ 社、バンコク、2004 年)。青少年向けということで、文字が大きく読みやすい、説明が平易である、教育用に掲載項目が厳選されている、等々、外国人タイ語学習者 (特に初級・中級レベル) にとっても使いやすい。ただ、難点は、自分が知りたい項目がどの巻に載っているのかを調べる索引がすべての巻にあるわけではなく、探しづらいこと。

6. 現代のすぐれた学習辞書 (日本人学習者向け)

日本人のタイ語学習者にとってもっとも頼りになるタイ語・日本語辞書は、1987 年に初版が出版された富田竹二郎著『タイ日辞典』(B5 版、2,205 ページ、約 3 万語、養徳社、天理、1987 年) だろう。初版は 1 冊本だったが、1990 年の改訂版『タイ日辞典』(B5 版、1,125 ページ、約 3 万語、養徳社、天理) は 2 冊本になり、さらに 1997 年には縮小改訂版『タイ日大辞典』(A5 版、2,326 ページ、約 3 万語、めこん社、東京) も出版された。タイで出版された数多くの辞書・事典から約 3 万語を拾い上げて日本語に訳した大作である。富田辞書の最大の長所は、単なるタイ語・タイ語辞書の翻訳に終わらず、それに細かい説明や実際の使用例までも載せている点である。また、この辞書には IPA (国際音声字母) による正確な発音表記がついているので、語の発音を確認したいときにも便利だ。

最近出版されたタイ語学習辞書の中で、収録語数が多く持ち運びにも便利なのは、松山 納著『タイ日・日タイ 簡約タイ語辞典 (合本)』(縦 16 cm×横 11 cm、469 ページ、大学書林、東京、1998 年) である。既刊のタイ・日辞書と日・タイ辞書を合わせたコンパクト版だ。富田辞書と同様、IPA の発音表記があるので語の発音を確認することができる。付録として「略語表」、「タイ国県名一覧」、「時間名称一覧」、「主要類別詞一覧」があるのも便利。ただ、校正が不十分のようで、不適切な訳がところどころ見られるのは残念。

日本語・タイ語辞書の中で収録語数が多いのは、バンコクにある泰日経済技術

振興協会付属語学学校 โรงเรียนภาษาและวัฒนธรรม สมาคมส่งเสริมเทคโนโลยี (ไทย-ญี่ปุ่น) の言語文化出版所 สำนักพิมพ์ภาษาและวัฒนธรรม がタイ人の日本語学習者向けに編纂した『日泰辞典 พจนานุกรม ญี่ปุ่น-ไทย』(A6 版、1,120 ページ、約 4 万語、エクミーแอนด์社、バンコク、2003 年) であろう。語数が多いのにサイズが小さく、印字が明瞭で使いやすい。ただし、タイ語訳に IPA 発音表記はない。

7. 現代のすぐれた他言語対訳辞書

タイ語と他言語との対訳辞書は、タイ語と、英語、中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ラオス語、カンボジア語、モン語、等々との対訳辞書あるいは 3 言語対訳辞書が出版されているが、やはりタイ語と英語の対訳辞書がもっとも多い。いずれも数種の異なるバージョン (大きさや収録語数、用例数が違う) があり、しかもそれぞれが版を重ねていてややこしいので、ここでは私が使っているものに限って紹介する。

<タイ語・英語辞書>

(1) ウィット・ティアンブーラナタム วิทย์ เทียนบุญธรรม 著 *A New Thai-English Dictionary (Library Edition)* พจนานุกรมไทย-อังกฤษ (ฉบับห้องสมุด) (A4 版、1,151 ページ、ルアムサーン รวมสาส์น 社、バンコク、1994 年)。図書館用なので大きく、持ち運びには向かない。タイの教育機関の図書館にはたいてい入っているタイ・英辞書である (電子辞書 CyberDict シリーズにもこの辞書の最新版 (1996 年版) が採用されている)。ところどころに動植物などの挿絵入り。

(2) ソー・セータブット สอ เสถบุตร 著 *New Model Thai-English Dictionary* (縦約 15 cm × 横約 10 cm、351 ページ、タイワタナーパーニット ไทยวัฒนาพานิช 社、バンコク、1992 年)。ポケットサイズのタイ・英辞書としてはもっとも意味記述が的確で、学術的使用にも耐えるものであろう。基になっている大型バージョン (B5 版、2 冊本) には用例が多く載せられているが、この小型バージョンでは用例を省いている。同じ著者による英・タイ辞書もある。いずれもロングセラーである (初版は 1940 年)。

(3) ローイ・チュンポントーン ลอย ชุนพงษ์ทอง 著 *Thai-English Dictionary for Academic Usage* ดิกชันนารีไทย-อังกฤษ เพื่อการใช้ของผู้มีการศึกษา (縦約 20.5 cm × 横約 14 cm、738 ページ、シーエトユーケーション ซีอีดยูเคชั่น 社、バンコク、2001 年)。最近出版された英・タイ辞書で、CD 付きバージョンもある。意味記述が特にすぐれているわけではないが、この辞書の長所はページの端にタイ語子音字の一覧があり、見出し語を探しやすいこと。

<英語・タイ語辞書>

英・タイ辞書では、เชียรชัย เอี่ยมวรเมธ เทียนไชย・IAM WORMEAT 著 *A New English-Thai Dictionary (New edition)* พจนานุกรมอังกฤษ-ไทย (ฉบับใหม่) (約 8 万語、ルアムサー

ン รวมสาส์น 社、バンコク) がおそらくもっとも大きいものであろう。多くの語項目に用例が添えられている。英語とタイ語の表現を比較しながら読むと面白い。私が持っているのは第3版(縦約26cm×横約19cm、1,911ページ、1993年)。第3版の縮刷版(縦約21cm×横約15cm、1994年)もある。

<英タイ・タイ英辞書(合本)>

シーエトユーケーチョン社英語研究部 ฝ่ายวิชาการภาษาอังกฤษ บริษัท ซีอีดูเคชั่น จำกัด (มหาชน) 編 *SE-ED's Modern English-Thai Thai-English Dictionary (Contemporary edition)* พจนานุกรมอังกฤษ-ไทย & ไทย-อังกฤษ ฉบับทันสมัย (縦約14.5cm×横約9.5cm、1,008ページ、6万2千語、シーエトユーケーチョン ซีอีดูเคชั่น 社、バンコク、2002年)。A5版と同じ内容だが、印字を小さくしたポケットサイズ版。持ち運びに便利だ。ページの端に英語アルファベット一覧あるいはタイ語子音字一覧があって引きやすい。

8. 現代のすぐれた文法書と入門書

<文法書>

最新のタイ語文法書は Shoichi Iwasaki and Preeya Ingkaphirom 著 *A Reference Grammar of Thai* (B5版、416ページ、Cambridge University Press、Cambridge、2005年)である。多岐にわたる文法項目を取り上げ、それぞれに実際の使用例を数多く載せているのが特徴だ。中級・上級レベルの学習者向き。

初級者向けの基礎的な文法事項を扱ったタイ語学習書として、三上直光著『タイ語の基礎』(A5版、317ページ、CD付き、白水社、東京、2002年)がある。発音編、文字編、文法編で構成された総合的なタイ語学習書だが、文法編がもっとも充実している。各課の終わりにある練習問題もよい。ただ、タイ語の語句や文の発音が示されていないところがあり、初級レベルの学習者が独学で使うには多少不便かもしれない。

<入門書>

水野潔・鈴木玲子著『CDエキスプレス タイ語』(白水社、東京、2000年)は、学習内容を詰め込みすぎず、日常会話をテーマにしながらも基本的な機能語や使い回しの利く表現について簡潔に説明したすぐれた入門書である。私が持っているのは第3版(A5版、150ページ、白水社、東京、2002年)。

タイ語の文字を段階的に、かつ体系的に学びたい人には、宇戸青治著『やさしいタイ語：文字の読み書き』(大学書林、東京、1992年)がお勧めである。私が持っているのは第13版(A5版、150ページ、大学書林、東京、1998年)。各課にたくさんの練習問題がある。

ซื้อพจนานุกรมดีๆเถอะ ไม่ต้องเสียจ่ายเงินหรอก

スー・ポッチャナーヌックロム・ディー・ディー・タツ マイ・トン・スィアダーイ・
グン・ロー (ク)

直訳：「良い辞書を買いなさい。お金を惜しまなくてもよい。」

逐語訳：

ซื้อ	พจนานุกรม	ดีๆ	เถอะ
スー	ポッチャナーヌックロム	ディー	ディー
タツ			
買う	辞書	良い	心的態度を表す小辞
「良い辞書を買いなさい」			

ไม่	ต้อง	เสีย	เงิน	หรอก
mai	tuang	sia	ngin	rohk
マイ	トン	スィア	ダーイ	グン
ロー	(ク)			
否定辞	～ねばならない	惜しい	お金	心的態度を表す小辞
「お金を惜しまなくてもよい」				

「高価であっても良い辞書は買うべきだ」という思いを人に伝えるとき、タイ語話者であれば、「辞書にお金は惜しむべからず」といった婉曲的で教訓的な言い方よりも、明示的かつ積極的に人に語りかける表現、例えばここで紹介した「いい辞書なら買いなさいよ。お金を惜しまなくたっていいじゃないの」というような表現を好む。